

製本のススメ

Vol. 176

新型コロナウイルスのおかげで春爛漫と浮かれていられないですね。学校が全国一斉休校になるだけで、経済に大きな歪が生まれます。情報がありすぎてデマに振り回された大人達の何と多い事でしょうか。日常と経済は密接な繋がりがあつたことを改めて実感します。

今回は**加工予備(損紙)枚数**の話し

加工予備はどれくらい必要だろうか?という問い合わせを時々頂きます。製本業界としては一応3%を目安にしていますが、それは実数が万単位の話一つの考え方として「オフセットで墨一色の印刷する場合の印刷損紙」を思い浮かべて下さい。1台100枚程度を印刷するのにどのくらいの紙が必要ですか? 10枚や20枚ではないはずですが、最近ではオンデマンド機の普及もあり 少数の印刷もさほど不良なしで出力が可能になりましたが、**製本機械の対応はオンデマンド向きではありません**。その為 各工程ごとにセッティング用の刷り本が必要です。かなり熟練の職人でも1工程で5~10枚程度の本文用紙を使います。ミシン加工では切れ味・位置調整で10枚は必要です。工程数が多いほどこのセッティングに必要な刷り本枚数が増え、無線綴じを例に挙げると

【仕込み断裁・折・貼り込み・丁合・表紙クルミ・仕上げ断裁】と最低でも6工程ある事になります。単純計算すると6工程×10枚で1台60枚の加工予備枚数が必要であり、これが**各台数分必要という事になります。さらに実数外の納本分も考慮してください**。特に少数(1000冊以下)では加工予備枚を実数の如何にかかわらず各台毎に50枚は最低でも付けて頂きたいですね。

折加工に関して言えば工程数は2工程です(断裁・折)特にミニ折りなどはセットが複雑ですので、最低でも100~200の加工予備+実数外納本の枚数が欲しいところです。安価で作るためにはどうしても機械作業になりますのでこの加工予備は大変重要なものです。少数だからと言って印刷と紙代を節約しても加工代が膨らんで本末転倒となります。



Tea break

特別活動と言う教育があるのをご存じですか?例えば部活やボランティア課外活動などです。家の中で家事手伝いも特別活動の一つです。子供には現実に体験することが何よりの勉強。どんなに小さなことでも経験しないと身に付きません。料理でも掃除や洗濯でも 休校を利用して積極的にやらせてみましょう。

弊社HPは www.isekiseihon.com

facebookは「井関製本の日々」

by (株)井関製本